

非浸潤性乳がんに対する内分泌療法

非浸潤性乳がんに対する内分泌療法には局所制御と対側乳がんなど二次的な乳がん発生の予防という2つの側面がある。NSABP B-24 試験では乳房部分切除 + 放射線治療後に TAM(Tamoxifen)を投与することで再発リスクが減少した。(絶対リスクで 5%、相対リスクで 37%)同側の浸潤性乳がんが 4.2.%から 2.1%に、非浸潤性乳がんが 5.1%から 3.9%に減少した。また対側乳がんの発生も TAM 投与により浸潤性乳がんが 2.3%から 1.8%に、非浸潤性乳がんが 1.1%から 0.2%に減少した。こうしたことから内分泌感受性のある非浸潤性乳がん患者では TAM 投与が勧められる。